

## 衛生法規に関する知識

問1 クリーニング業法に関する次の記述の（ ）に入る語句を、下の語群ア～コの中から選び、その記号を解答欄に記入しなさい。

- (1) クリーニング業法は、クリーニング業に対して、公衆衛生等の見地から必要な指導及び取締りを行い、もってその経営を（ ① ）に適合させるとともに、利用者の利益の擁護を図ることを目的とする。
- (2) クリーニング業法で「クリーニング業」とは、溶剤又は（ ② ）を使用して、衣類その他の繊維製品又は皮革製品を（ ③ ）のまま洗たくすることを営業とすることをいう。
- (3) 営業者は、洗たく物の受取及び引渡しをしようとするときは、あらかじめ、利用者に対し、洗たく物の（ ④ ）について説明するよう努めなければならない。
- (4) 洗場については、床が、不浸透性材料（コンクリート、タイル等）で築造され、これに適切なこう配と（ ⑤ ）が設けられていること。

<語群>

ア	製品	イ	洗剤	ウ	処理方法等	エ	自己の利益
オ	料金	カ	原型	キ	公共の福祉	ク	滑り止め
ケ	水	コ	排水口				

問2 クリーニング業法に関する次の記述について、正しいものには○印を、誤っているものには×印を解答欄に記入しなさい。

- (1) 営業者は、クリーニング所以外でも、クリーニング師を配置し、設備を整えれば、営業として洗たく物の処理を行っても問題ない。
- (2) クリーニング所を開設しないで洗たく物の受取及び引渡しをすることのみを営業としようとするものは、あらかじめ必要な事項を都道府県知事に届出なくとも行うことができる。
- (3) 営業者は、クリーニング所ごとにクリーニング師及び事務員を各1人以上配置しなければならない。

- (4) 病院において療養のために使用された寝具を取り扱う場合は、他の洗たく物と区分しておき、これを洗たくするときは、その前に消毒すること。ただし、洗たくが消毒の効果を有する方法による場合は、消毒しなくてもよい。
- (5) 営業者は、洗たく物の受取及び引渡しをするに際しては、利用者に対し、苦情の申出先を明示しなければならない。

問3 クリーニング業法及びクリーニング業法施行規則に関する次の記述について、【     】のうち正しい方を選び、解答欄にAまたはBを記入しなさい。

- (1) クリーニング師の免許は、【A. 保健所長     B. 都道府県知事】がクリーニング師試験に合格した者に与える。
- (2) クリーニング師は、その本籍又は氏名を変更したときは、【A. 10日     B. 1ヶ月】以内に、免許を与えた都道府県知事に対して、免許証の訂正の申請をしなければならない。
- (3) クリーニング所の業務に従事するクリーニング師は、業務に従事した後【A. 1年     B. 3年】以内にクリーニング業法第8条の2の規定による研修を受けるものとする。
- (4) クリーニング所の業務に従事するクリーニング師は、前述した(3)の研修を受けた後は、【A. 5年     B. 3年】を超えない期間ごとに研修を受けるものとする。
- (5) 営業者は、クリーニング所の開設の日又は無店舗取次店の営業開始の日から1年以内に、当該クリーニング所又は無店舗取次店のクリーニング業務に関する【A. 技術管理     B. 衛生管理】を行う者として、その従事者の中からその従事者の数に1/5を乗じて得た数の者を選び、その者に対し、クリーニング業法第8条の3の規定による講習を受けさせるものとする。

問4 クリーニング業において、消毒が必要とされているものを、下の語群ア～ケの中から5つ選び、その記号を解答欄に記入しなさい。

<語群>

ア	浴衣	イ	Tシャツ	ウ	タオル	エ	パンツ (下着)
オ	おむつ	カ	帽子	キ	手ぬぐい	ク	ズボン
ケ	病院の患者が使用したパジャマ						

## 公衆衛生に関する知識

問5 次のクリーニング所における衛生管理に関する説明文について、正しいものには○印を、誤っているものには×印を解答欄に記入しなさい。

- (1) 洗濯物を運搬する車には、未洗濯のものと仕上げの終わったものを区分して入れる専用の容器等を備えること。
- (2) クリーニング業法に基づき、洗濯物の処理を行うクリーニング所に必ず設置することとされているクリーニング師は、公衆衛生及び洗濯処理に関する専門知識を有する者であり、当該クリーニング所の衛生管理を行う上での実質的な責任者となるものであること。
- (3) 引火性溶剤の保管容器は、爆発を防止するため密閉しないこと。
- (4) 処理の終わった洗濯物については、指定洗濯物を指定洗濯物以外の洗濯物と区分して保管すること。
- (5) 洗濯物を防虫・防水等のために薬剤又は樹脂により特殊加工を施す場合は、その量及び濃度を適正にして使用し、余剰の薬剤等を十分に除去すること。

問6 次の食中毒及び感染症に関する説明文について、正しいものには○印を、誤っているものには×印を解答欄に記入しなさい。

- (1) 腸管出血性大腸菌O157による食中毒の主な症状は下痢及び腹痛であるが、溶血性尿毒症症候群等により死に至ることがある。
- (2) ノロウイルスによる食中毒は、特に夏に多く発生する。
- (3) 妊婦が風疹にかかると、障がいをもった赤ちゃんが生まれる可能性があるため、風疹の予防接種は女性だけに必要である。
- (4) はしかは感染力が非常に強く、予防接種が唯一の有効な予防策である。
- (5) WHOによる2016年の推計によると、世界全体で、結核は単一の病原体による感染症としては最大の死亡原因となっている。

問7 次のクリーニングに関する説明文について、最も関係が深い法律を下の語群ア～カの中から選び、その記号を解答欄に記入しなさい。

- (1) ドライクリーニング溶剤を含む残渣の処理を業者に委託するにあたり、業者にマニフェストを交付した。
- (2) 引火性溶剤を用いるドライクリーニングを営む工場については、住居系用途地域や商業系用途地域における立地を禁止している。
- (3) 洗濯業の用に供する洗浄施設は、特定施設に該当し届出が義務付けられている。
- (4) ドライクリーニングに用いる石油系溶剤等の有機溶剤を対象として、作業主任者の選任、有機溶剤蒸気の発生源対策、特殊健康診断等を定めている。
- (5) テトラクロロエチレンによるドライクリーニング機(密閉式のものを除く)であって、処理能力が1回当たり30キログラム以上のものを有する施設は指定物質排出施設として指定されており、テトラクロロエチレンの排出量が指定物質抑制基準により規制されている。

<語群>

ア	大気汚染防止法	イ	水質汚濁防止法	ウ	労働安全衛生法
エ	廃棄物の処理及び清掃に関する法律	オ	消防法		
カ	建築基準法				

問8 次の説明文について、正しいものには○印を、誤っているものには×印を解答欄に記入しなさい。

- (1) 多くの国では、健康を基本的人権の一つとして捉えており、我が国においてもクリーニング業法で「すべての国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。」と規定されている。
- (2) 喫煙は、肺がんの原因となることは明らかになっているが、その他のがんの原因となることは科学的に明らかとはなっていない。
- (3) 大量飲酒は、高血圧症の原因とはなるが、がんの原因とはならない。
- (4) ノロウイルスに汚染された洗濯物の消毒は、熱湯や次亜塩素酸ナトリウムによる消毒が有効である。
- (5) インフルエンザの予防対策としては、流行前のワクチン接種、外出後の手洗いのほか、室内を乾燥させておくことも有効である。

## 洗たく物の処理に関する知識

問9 次の説明文について、当てはまるものを下の語群ア～シの中から選び、その記号を解答欄に記入しなさい。

- (1) 和服のクリーニングにおいて、衿、袖口、裾、身頃などの汚れを部分的に除去する方法を（ ① ）という。
- (2) 絹、レーヨン、アセテートなどのフィラメント織物に、木目や波形、あるいは雲状の模様を付ける加工を（ ② ）加工という。
- (3) ドライクリーニング溶剤の1つである（ ③ ）は、化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律の第二種特定化学物質に指定されており、環境保全対策が必要である。
- (4) 毛皮のクリーニングは、脱脂されるのでドライクリーニングは避けて、（ ④ ）クリーニングを行う。
- (5) 皮革のクリーニングにおいて、スエードの場合は、（ ⑤ ）を用いて小さな穴から微粒子を吹き付けて汚れを削り取る前処理をする。

<語群>

ア ウェット	イ 生洗い	ウ ベンジン
エ パウダー	オ ドライ	カ ランドリー
キ ラミネート	ク テトラクロロエチレン	ケ 洗い張り
コ サンドブラスト	サ モアレ	シ グレイジングマシン

問10 次の説明文について、正しいものには○印を、誤っているものには×印を解答欄に記入しなさい。

- (1) 油性のシミには、水と中性洗剤を基本のシミ抜き剤とする。
- (2) 塩素系漂白剤は、染色物には使用できない。
- (3) クリーニング事故賠償基準第2条では、クリーニング業者を「利用者とクリーニング契約（寄託契約と請負契約の混合契約）を結んだ当事者をいう」と定義しているが、委託先で事故が発生した場合は、契約当事者たるクリーニング業者に賠償責任はない。

- (4) 一般的なドライクリーニングシステムであるチャージシステムによる洗淨においては、ソープが規定濃度であれば、何度でも繰り返し使用できる。
- (5) 次亜塩素酸ナトリウムは、低温では効果を発揮しない。

問 1 1 次の説明文について、【 】のうち正しい方を選び、解答欄にAまたはBを記入しなさい。

- (1) チャージシステムでは、ドライ溶剤と被洗物をともに【A. 30%~35% B. 70%~75%】の湿度に常に管理していないと、水溶性汚れの除去が悪かったり、色落ちや収縮、再汚染など衣料に悪影響を及ぼす。
- (2) 【A. テトラクロロエチレン B. ベンジン】は可燃性であり、引火点が $-40^{\circ}\text{C}$ と引火しやすいため、取扱いには注意が必要である。
- (3) クリーニングの仕上げにおいて、ドライ仕上げの最適蒸気圧は、【A. 0.5Mpa B. 1.5Mpa】である。
- (4) 【A. オパール加工 B. フロッキー加工】とは、耐薬品性の異なる2種の繊維からなる混紡・交織物の布地に、一方の繊維を溶解する薬剤をなっ染することにより、布地の薄い透かし模様をつくる加工である。
- (5) 【A. ナイロン B. 綿】は、熱に対して弱く、また、日光やガスなどにより黄変するという欠点がある。

問 1 2 JIS L 0001 による取扱い表示記号と意味の組み合わせについて、正しいものには○印を、誤っているものには×印を解答欄に記入しなさい。

- (1) ウェットクリーニング処理ができる。



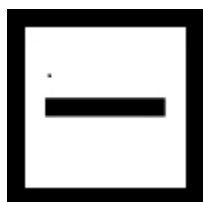
(2) 洗濯処理後のタンブル乾燥処理はできない。



(3) 底面温度 110°Cを限度としてスチームなしでアイロン仕上げ処理ができる。



(4) つり干し乾燥がよい。



(5) 酸素系漂白剤による漂白処理ができるが、塩素系漂白剤による漂白処理はできない。

